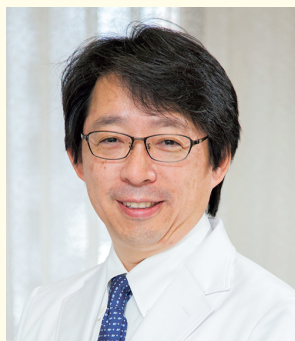


臨床研究センター長就任の挨拶



久留米大学病院には二つの果たすべき使命があります。一つはこの久留米・筑後地区の医療の最後の砦として、地域の皆様に安心・安全な最新の治療を提供することであり、もう一つは、新しい医療を創出し我が国の医療のさらなる発展、国民の幸せに貢献していくことです。

我が国は世界に先駆け超高齢社会となり、人生100年時代を迎えようとしています。このことは、医学研究に携わる人々の弛まぬ努力による医学の進歩が、治療薬・治療法の開発を通じて、多くの疾病を克服してきたからに他なりません。現在も、高齢化により非感染性疾患と呼ばれる糖尿病、心不全、癌などの疾患が新たな医療課題として浮上し、その克服を目指した研究が続けられています。さらに今年は、新型コロナウイルス感染症パンデミックが発生し、その制圧を目指して、様々なアプローチによるワクチン開発や治療薬開発が世界中で進められています。大学や研究機関の優れた研究成果を、臨床試験を通じて開発し実用化につなげる（社会に還元する）ことの重要性がクローズアップされています。

臨床研究センターでは、医師、薬剤師、看護師など多くの職種のスタッフが協力し、また、バイオ統計センターとも連携し、質の高い臨床試験を支援しています。トランスレーショナルリサーチを推進し、実用化につなげるためには産官学連携をさらに推進する必要があります。私たちは人と人をつなぎ、久留米大学病院のもう一つの使命である新しい医療の創出に、スタッフ一丸となって貢献してまいります。皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。

令和2年10月

久留米大学病院

臨床研究センター長 野村 政壽

病院執行部体制

病 院 長	志波 直人
病院長特別補佐	八木 実
副 院 長	鳥村 拓司
	田中 芳明
	渡邊 浩
	福本 義弘
	高須 修
	赤木 由人
	野村 政壽
	上野 知昭

私たちの理念

人と地球にやさしい、^{いのち}生命を慈しむ医療

私たちのめざす医療

- 1. 患者中心の医療**
生命の尊さにもとづき、患者や家族の権利を尊重し、心のかよう医療を行います。
- 2. 共生の医療**
地球環境にやさしい共生の医療をめざします。
- 3. 高度で安全なチーム医療**
安全性を確保し、高度で専門的なチーム医療の確立をめざします。
- 4. 地域と共に歩む医療**
地域医療機関との連携を密にした、継続性のある医療を行います。
- 5. 優れた医療人の育成**
教育機関として高水準の医療技術と思いやりを備えた医療人の育成に努めます。

TOPICS 1

心臓血管外科 教授就任挨拶



令和2年6月より久留米大学病院外科学心臓血管外科、教授を拝命しました。

当教室は、1960年に人工心肺を使った開心術を始めた（九州初）伝統ある教室です。長い歴史と経験を経て、現在は弁膜症、冠動脈疾患、大血管疾患、先天性心疾患と幅広い治療を行っています。さらに最近は大動脈に対するステントグラフト、カテーテルによる人工弁植え込み（TAVI）などの低侵襲な治療や、植え込み型人工心臓（VAD）を使った心不全治療など先駆的治療にも

力を入れています。急性大動脈解離を始めとする、緊急手術にも多数対応させてもらっています。

診断に難渋する症例、治療法の選択に迷う症例など、手術適応か否かに関わらずご相談に乗りたいと考えています。お気軽に相談いただければ幸甚です。

今後も地域の循環器治療施設の核として、幅広い疾患の診断、治療のお役に立ちたいと考えております。今後も何卒宜しくお願い申し上げます。

令和2年10月

久留米大学外科学講座

心臓血管外科 田山 栄基

TOPICS 2

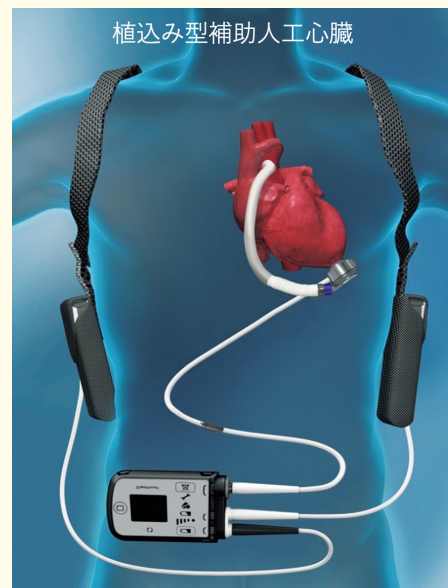
重症心不全に対する機械的補助循環による外科治療

久留米大学外科学講座心臓血管外科 講師 高木 数実

近年、めざましい進歩を遂げている重症心不全に対する機械的補助循環治療に関し、当院で積極的に取り組んでいる治療方法の「植え込み型補助人工心臓(VAD)」と「経皮的補助循環用ポンプカテーテル(インペラ)」についてご紹介させていただきます。

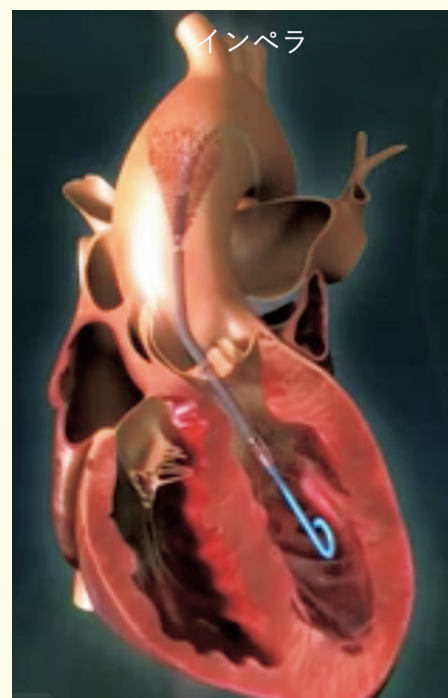
【植え込み型補助人工心臓(VAD)】

小型の血液ポンプを体内に植え込み、左心室脱血、大動脈送血で長期に循環補助できる装置です。入院でなく自宅生活で高いQOLが維持できます。主に、心臓移植待機症例が対象で、当科では2013年から臨床応用しています（現在3名植え込み後心移植待機中、最長3年経過）。今後は、心移植適応以外へも適応拡大の予定です。



【経皮的補助循環用ポンプカテーテル(インペラ)】

経皮的にカテーテルを血管内から左心室へ挿入し、左心室脱血、大動脈送血を行うカテーテル型ポンプです。IABPやPCPSより強力な補助が可能で、心原性ショックなどの急性期治療に有効です。当科では2019年より使用しています。



以上のように、当科では重症心不全に対する様々な外科治療に取り組んでおりますので、治療方針などにお迷いの際にはお気軽にご相談頂ければ幸甚です。

TOPICS 3

新電子カルテシステム稼働のお知らせ

令和2年9月22日に久留米大学病院及び医療センターは新電子カルテシステム（NEC：MegaOak HR）を稼働致しました。

二施設のシステム統合により、くるめ診療情報ネットワーク協議会（アザレアネット）には医療センターが新たに開示病院として参加することになります。久留米地域包括ケアシステム（KICS）の中核病院として求められる地域医療・在宅医療支援機能の一環としてご活用下さい。10月中を目処に大学病院でも開示範囲を拡大し、ご要望の多かった経過記録を閲覧していただける予定です。

また、新システムでは医療連携センターが取り組んできた紹介予約や入退院支援等を主要機能として位置づけ、病診連携・病病連携の更なる改善を目指しています。

ベンダ変更を伴うシステム更新にコロナ禍も重なる中ではありますが、速やかな安定稼働に向け職員一同頑張っております。今後、直接的な患者サービスとしてID統合や診察券共通化、スマートフォンによる待合表示・後払い会計等を導入予定ですので、よろしくお願い致します。

令和2年10月

医療情報センター

医療連携センター副センター長 七種 伸行

【紹介予約センター】

電話：0942-27-5673（スマートフォン・携帯電話）

0800-200-4897（フリーダイヤル）

平日開院日 8：30～18：00 土曜日（祝日を除く） 8：30～14：00

FAX：0800-200-9489（フリーダイヤル）

24時間申込可（ただし、平日開院日18：00以降および土曜日（祝日を除く）14：00以降、休診日の申込は翌診療日の受付となります。